



発行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市
坂部 2151 番地 2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
<http://www.yamabatogakuen.jp/>

機関誌代は無料です。

新年もイエス様とともに

(一)

早いもので、本年(二〇二五年)も、あと残り一ヶ月余となりました。

今年は猛暑の日々が長く続きました。十月に入ってやっと朝夕涼しさを感じるようになりましたが、快適な秋を満喫する暇もなく、十月二十三日には富士山で「初冠雪」、十一月七日には盛岡で「本州初の『初雪』」のニュースが伝えられ、秋はどこへやら、急に冬の接近を実感する日々になり、残念です。

一年を振り返ってみると、ロシア侵攻から始まったウクライナ戦争が長期化していることや、驚くようなランプ関税の発表、日本に女性初の総理大臣が誕生したことで、北海道や東北にクマによる被害が多発していること等が、大き

な出来事として浮かんできます。

が、私たちにとって一番身近で深刻な出来事は、やはり、「牧之原市に国内最大級の竜巻到来」でした。

(また、私にとっては、障害を持つご利用者三名のご逝去も、忘れられない出来事でした。)

別紙(募金のお願い)にも書きましたが、多くの方々から竜巻災害に関してお心遣いいただいたことを、改めて感謝申し上げます。幸い、当法人には建物などの損壊・損傷はなく、エアコンなど一

部の器具が故障しただけでした。そしてそれらも企業財産包括保険(火災保険)により、新しいものに替えることができましたので、皆様からの見舞金は、主として被災した職員支援のため活用させていただきます。

牧之原市内の竜巻被災や支援状況については、今回の機関紙に掲載されていますので、ご覧下さい。

風水害にしろ、火事にしろ、戦争にしろ、人間にとって、「住まいの喪失」や、「暮らしの突然の変化」は、どんなにか辛く、重苦しい日々をもたらすことでしょう。

そのような辛い体験を余儀なくされた方たちの上に、最善の助けがありますように、安心して暮らせる日が一日も早く来ますよう、今後も祈らせていただきます。

(二)

女性初の総理大臣

「高市早苗氏」の登場に関連して、最近施設では、こんなことがあったと聞きました。

男性ご利用者のAさんは、日頃から、仲間

の「さなえさん」を恐

れている、あまり近づかないようにしています。実は当施設にいる「さなえさん」は、知的能力も高く、機嫌がよいときは細やかな心遣いもできる方ですが、気持ちが変わり易く、急に怖い表情になったり、攻撃的になったりすることがあり、Aさんだけでなく、他のご利用者たちも恐れています。

ある日、テレビで国会討論の様子が報じられ、「高市早苗総理大臣」と呼ばれる場面がしばしばあったそうですが、「さなえ」の名前が呼ばれるたびに、Aさんは、「ダメだ、さなえ」「さなえ、ひっこめ」などとブツブツ横やりを入れたとのこと。スタッフたちは笑って見守るしかなかったようですが、面と向かって、「さなえさん」に発言できないAさんは、(ここなら安全と思って)、日頃のうっ憤を、テレビに向かって晴らしたのでしょう。

ここで高市総理大臣の名誉のために付記しますと、実は私は当初、高市氏にあまり良い印象を抱いていませんでした。が、メディアを通してしばしば彼女の言動を見るにつけ、自分の使命を果たそうと熱心に取り組む姿勢、猛烈な働き



手、素早い決断と対応、明瞭な国会答弁などが印象に残り、「努力の人」「自分の言葉で発言する人」「総理大臣になるべくしてなった人」という好印象を抱かれています。

今後どのような政策を打ち出すか知りませんが、私の願いとは違う施策が出てくるかもしれません。が、とにかく、課題山積みの国内外の情勢の中で、世界と日本の「平和」と「繁栄」のため、フル活躍していただきたいと願っています。

(三)

「高齢化社会」や「高齢社会」という言葉に明確な定義はないようですが、総人口に占める六十五歳以上の高齢者の割合が七%を超えると「高齢化社会」、十四%を超えると「高齢社会」と言われます。

日本が「高齢化社会」になったのは「一九七〇年」で、わたしたちが初めて重度知的障碍児施設「やまばと学園」を開設した年でした。当時は、「高齢社会の到来」について大きく話題になることはほとんどありませんでした。

一九八一年、当法人は特別養護老人ホーム「聖ルカホーム」を開設、いづれ日本は少子超高齢社会

になると考えたためですが、その頃にはすでに、意識の高い人々の間で、「高齢社会の到来」が問題にされ始めていました。しかし、一般市民の間では、「高齢社会」への関心もなく、そのため、「聖ルカホーム」の用地獲得に当たっても、「そんな姨捨山のような施設はいらない」とか、「そんな施設ができたら自分の土地の価格が下がって迷惑だ」とか、特養ホーム建設反対の意見が多かったのです。

高齢者人口が十四%を超えたのは一九九五年で、この年から日本は「高齢社会」に突入。その背景には、「医療の進歩」や、「合計特殊出生率の減少」があると説明され、出生率低下を防ぐ動きも始まりましたが、効果はなく、少子高齢化は加速しました。

高齢者人口が二一%を超えると、「超高齢社会」と言われますが、二〇一〇年には「超高齢社会」へ。この頃には誰もが、老後の自分のあり方に関心を寄せ、「福祉は我が事」になっていきました。

二〇一四年、聖ルカホーム移転の際にはどこでも歓迎され、様変わりした世相を実感したのでした。

(四)

現在、国内の六十五歳以上の高齢者は3619万人（男性1568万人、女性2051万人）で、総人口に占める割合は二十九%。3,5人に一人は高齢者という状況です。

九月二十一日付の福祉新聞は、「九月一日時点で百歳以上の高齢者は全国で9万5663人（前年比4644人増）。うち女性は、九割弱を占める」と報道しました。

「働く高齢者」も増えていて、総務省は、「二〇二四年に六十五歳以上で働いた人は九三〇万人で、過去最多だった」と発表しました。

百歳以上の人も、働く高齢者も年々増加し、過去の記録を更新。恐らく今後も日本では、多様な高齢者が増え続けることでしょう。

「長寿を喜び、祝う社会であってほしい」と願っていますが、一方では、超高齢社会に伴う様々の課題（要介護者の増加と介護人材の不足、医療費膨張の問題、社会保障制度を支える生産年齢人口が減少する一方で支給対象者は増加し社会保障制度の存続が危ぶまれている問題、経済成長低迷の恐れ等々）が取り沙汰され、それらを

耳にすると、先が思いやられ、悲観的な思いにもされがちです。

しかし、イエス様と共に歩んできた者は、暗闇の中でも光を見ることができ、自分にできることを喜んで果たしていけるでしょう。周囲の人々から喜びを与えられなくても、神御自身から慰めや喜びを与えられ、安心して歩んで行けるのではないのでしょうか。

やや主観的で独断的な表現になりましたが、誰かのお役に立つことがあればと思って、私の信仰経験の一端を書かせていただきました。

皆様、よいクリスマスと新年を迎えられますよう、また、神様の祝福が豊かにありますようお願い申し上げます。

〈理事長〉長沢道子



大阪の地で学んだ歴史と未来

「坂部小学校六年生修学旅行」

竹 下 知 行

令和七年十月二日から三日、牧之原市立坂部小学校の六年生は大阪方面への修学旅行を実施しました。例年なら東京方面ですが、今年は大阪・関西万博があり、特別に大阪方面への修学旅行を計画したのでした。

発端は二年前の文部科学省からの大阪・関西万博への修学旅行に関する通知でした。小学生や教員の入場優遇措置があると知り、行きたいと考えたのですが、課題は山積みでした。過去に大阪方面への実施がないことや万博開催に関する不安要素が多々あることなどです。

そのような状況でも、私は、「子供たちをぜひ万博に連れて行ってあげたい」という強い思いを抱いていました。私自身、学生時代の「つくば万博」での感動が今も心に刻まれており、その体験を子供たちにも味わってほしいと思ったからです。

二年前の秋、当時四年生の保護者の全員が集まる会合に出向き、本件について説明させていただき、賛否は分かれるかもしれないと予想しましたが、保護者の皆様からは「反対する理由が見当たらない」「ぜひ、

子供たちを万博に連れて行つてくさい」など、応援の声がなく、皆様から賛成いただき、とても心強く思ったのでした。この会合以降、保護者を含めた業者選定や行程の作成、パビリオンの予約抽選の申込などを行い、準備を進めました。

準備期間中、万博関連の報道により不安が広がる場面もありましたが、正しい情報をもとに、皆で知恵を出し合い準備を重ね、当日を迎えることができました。

「二日目 大阪の歴史にふれる」

旅行初日の十月二日、朝、バスで学校を出発した一行は、お昼過ぎに大阪城を訪れました。社会科教育の専門家でもある担任の久保田教諭が、戦国時代や大阪城について詳しく解説してくれ、子供たちは積極的に学びを深めました。その後、夕方にはUSJを訪れ、グループ毎に分かれ研修活動、アトラクションや食事を楽しみながら、友情と連帯感を育む大切な時間を過ごしました。

「二日目 いざ万博へ」

翌三日は、修学旅行最大の目的地である大阪・関西万博へ。天気は曇り、最高気温も二十五度程度、熱中

症の心配が減り、安心して会場へ向かいました。

会場には午前九時に到着。修学旅行の団体として特別に優遇され、並ぶことなくスムーズに入場できました。午前中は入場制限もあり、とても空いていました。まず、大屋根リングとガンダムを背景に記念撮影をし、その後、各グループに分かれて見学。心に残る体験をたくさん積むことができました。

例えば、私が同行したグループでは、万博記念スポットでの撮影後、中国パビリオンに並ばず入場でき、月の裏側の砂などを見学、未来技術への興味を掻き立てました。また、空いていた大屋根リングを移動手段に使い、コモンズパビリオンではスタンプラリーを兼ねて二十か国以上を訪問することができました。昼食は、早い時間に購入していたため、混雑を避けて、集合時間を待ちながら食事ができました。

最後に、とても人気のある「いのちの未来」パビリオンを訪問し、未来の技術や生命の可能性について学びました。子供たちは、本物そっくりの野口英世さんやマツコ・デラックスさんなどのアンドロイドの動きに夢中になり、未来について仲間と真剣に考える姿が見られました。その後、入場者数かなり増えました

が、事前準備が功を奏し、無事に全員で退場することができました。

「修学旅行を終えて」

午後三時、大阪をバスで出発し、夜八時には子供たちは坂部小学校へ帰着しました。出迎えてくださった保護者の方々に、子供たちは大阪城USJ、万博など、修学旅行での経験を嬉々として話しており、多くの満足の声と姿を頂戴しました。

坂部小学校に赴任して二年半、様々な決断の中でも、この修学旅行は大きな挑戦でしたが、素晴らしい学びと感動が生まれ、実施して本当に良かったと感じています。子供たちがこの経験を心に刻み、未来に活かしていくことを切に願っています。最後に、修学旅行の実施に向けて準備を進めた教職員、御理解と応援をくださった保護者、地域の皆様へ心から感謝を申し上げます。



名士に学ぶ

ワークセンター希望の家 原 絵梨

今年度、施設管理者の育成研修の一環として、地元で活躍されている名士からお話を伺う「名士に学ぶ」シリーズが始まりました。第一回の講師は、牧之原市の元市長・西原茂樹氏。旧相良町と旧榛原町の合併という激動の時期に市政を担い、牧之原市初代市長として尽力された方です。講演は西原氏との距離が近く、いつ対話を求められるかわからない緊張感のあるスタイルでしたが、ユーモアを交えた語り口に引き込まれ、笑いと学びにあふれた時間となりました。

今回のお話の中で特に印象に残ったのは「市民の心を動かし、協力体制を築く秘訣」です。主役は市民・職員・現場で働く人々であるという意識を常に持ち、支援してもらえ、力を高めることが管理者としての重要な資質であるという言葉に深く感銘を受けました。マネジメントとは

人にやる気を起こさせ、その力を最大限に発揮させることであるとも、西原氏は話されていました。その為には気づき・共感・行動のプロセスを大切に、「自らやってみよう」という気持ちを引き出すことがリーダーに求められます。施設運営も同様に、ご利用者や職員と共に作り上げていくものだとして改めて実感しました。地域社会を動かす政治の手法は施設運営に通じる部分が多く、課題に直面した際のリーダーシップのあり方について、大いに学ぶことが出来ました。

私たちが自ら体験・経験できるところには限りがありますが、西原氏のように幅広い知識と深い洞察力を持つ方の視点や思考に触れることで、日々の業務に生かせる貴重な教訓を得ることが出来ます。「名士に学ぶ」ことは自身の成長へとつなげるための有意義な機会であると思いました。今回の研修で得た学びを、今後の施設運営や職場づくりに生かしていきたいです。

(施設長)

九月五日竜巻被害のあと

さくら 大須賀 貴生

九月八日、もうすぐ勤務時間が終わる頃、職場のパソコンに力サブラン力澤渡施設長からの法人全体メールを見つけました。

「今回の突風で吉田町に住むカサブランカの利用者さんの家が被災し、家の壁などが飛ばされ、隣の敷地に散乱しました。直ぐに片付けて欲しいと言われているらしいのですが、人手が無く片付けるのに困っているとのこと。片付けにご協力いただける方は、本日十六時十五分、吉田町ショッピングガーデン集合です。ご協力下さい。」とありました。

いつもお世話になっている澤渡さんからのお願いだったことから、場所も職場から近かったことから、もう集合時間は過ぎていましたが行ってみる事にしました。集合場所に着きましたがもちろん誰もおらず、電話をしてみても繋がりませんでした。諦めて帰ろうと思ったところ、やまばとの職員が十人くらいで片付けをしているのを見つけました。

メールの通り、家の壁なのか屋根なのか、大きな木材などが隣の敷地に散乱していました。隣の敷地に落ちた壁らしきものからバールで柱を剥がして運ぶことに協力をしました。その大きな破片はとても重く、男性四、五人いても運ぶことは出来ず、台風威力の凄さを感じました。壁には柱を付けていた釘が刺さっていて、その上を歩くと外靴から貫通して釘が足の方に入ってきました。怪我はしませんでした。とても危険だと感じました。自分は遅れて参加したので、三〇分位しかお手伝いできませんでした。散乱した瓦礫や木材がある程度片付くと、お家の方はとても感謝してくれました。少しでも力に慣れたのなら行って良かったと思いました。

今回のお手伝いの内容は外に飛んで行ってしまったものを片付けたただけです。雨漏りのある部屋の片づけやその修繕等、被害に遭われた方々はまだまだ大変な生活をされていることと思います。一日も早く元の生活に戻ることを願っています。

(主任生活支援員)

本物のスイカはどうだ

グレイス 奈須和子

当施設では、毎月、各ユニットでレクリエーションの時間を設けています。今回は、テーブルに並べられたスイカや様々なビーチボールの中から本物のスイカを当てて頂くといいシンブルなゲームです。

今から何が始まるのかな?と不思議そうな表情だったご利用者も職員から「本物を良〜くみてね」と声をかけられ「スイカ」と応えて、バットを振り下ろしました。

でも、よく見ると本物ではなく、ビーチボールのスイカです。残念!気持ちを取り直してもう一度。皆の掛け声もあり、本物を当てる事ができた時は笑顔が見られました。

中には、ただ目の前にあるボールを叩いているだけの方もいましたが、皆様真剣な表情をされていました。

単なる遊びではなく、体を動かす・考える・楽しむことができ、リハビリにつながり、職員やご利用者との



交流を通して心の元気が生まれる時間だと思っています。楽しくゲームをした後は、本物のスイカ

を皆でおいしくいただきました。

(介護員)

「メロン割り」で笑顔満載

かたくり 渡邊千恵子

七月十八日、恒例の「スイカ割り」に代わり「メロン割り」を行いました。今年はスイカの価格が高騰していたため困っていたら、御前崎にあるメロン農家の加藤農園さんとの出会いがあり、なんと当日かたくりの花に完熟した立派なメロンが四個も届いたのです。

メロンはスイカより小ぶりなため、新聞紙で紙風船を作りメロンの上に乗せて叩くスタイルにしました。目隠しはサンングラスで対応、玩具のバットやピコハンマーを使ってご利用者が安全に楽しめるように工夫しました。紙風船がはじけるたびに笑顔で笑う様。早く食べたくて何度声があがり、夏の楽しい思い出となり、協力してくださった加藤農園様に感謝しています。

(施設長)



台風15号の竜巻に伴う緊急対応について

包括支援センターオリフ 松田正幸

二〇二五年九月五日に牧之原市を襲った台風15号は、今なお深い傷跡を残したままです。「国内最大級」と表現された竜巻の後の街の風景は悲惨なものでした。

直後から担当者は、独り住まいのご利用者に電話や訪問をして事態の確認をしました。「窓が割れて、家中が水浸しになっている」「家の中で転んでケガをしている」「急遽親戚の家に身を寄せている」等々の情報が集められてきて事態の深刻さが次第に明らかになってきました。家が壊れて緊急に施設入所の必要がある方もいました。

そのうち関係機関から「姉、妹の二人のご利用者が住んでいる家が崩壊しているので応援頼む!」という要請があり、私ともう一人の職員が出向きました。その方の家は、道路に面する玄関、雨戸は壊れ、窓ガラスは全て割れて部屋中にガラスや衣類、木片が散乱し家の奥まで見通せる状態でした。その奥の部屋の濡

れた布団の上で「困った困った、ごめんなさいね」とつぶやいているご利用者がいました。膝が悪く歩行が困難な方でした。同居している妹さんは精神の疾病があり、深刻な事態にただただ立ちすくんでいました。私たちは、お姉さんが座っている布団を担架の代わりにしてそのまま車に運び入れて避難所に連れて行きました。妹さんはガラスの破片で足の裏をケガしていましたが、「家から離れない」と強く主張されるので、そのままにしました。(3日後に無事病院へ入院しました。)

竜巻によって家が壊された上、停電、断水が重なった独り暮らしのご利用者が複数いらっしゃいます。大きな被害を受けた地域が丁度オリブの管轄地域でもあったので、職員一丸となって牧之原市の行政や社会福祉協議会の方々と連携して活動し、今も続けています。

今後もご利用者の悲痛な声にしっかりと耳を傾け、そのニーズに少しでも応えていきたいと思っています。

(所長)

歩みのあと

(9月1日～10月31日)

●全体的なこと

9/15第5次修正委員会に大きな被害はなく、牧の原市内事業所では最長3日間の停電対応をしました。9/11日からの経営山本潤平様(社会保険労務士)による労務研修。10/7第2回新入職員オリエンテーション。10/10新入職員研修。10/15地域の名刺に学ぶ会(第1回)、静岡福祉大学長増田樹郎様にお話を伺う。10/24第2回苦情解決委員会。第三者委員も参加され、上半期苦情について検討。

●個別の

〔法人〕9/13第四回理事会説明会。10/2導入のためのDIX学校説明会。10/23オリブの実を収穫。今年は猛暑と台風で実の付きが少なかった。10/2(福)草笛の会創立50周年記念式典(河本部長出席)10/3(近)江ちよは会との交流研修。10/9障害者雇用納付金等に関する調査。10/14牧之原市社協へフードバンク食糧の引き渡し。10/27長澤理事長牧之原市社協評議員会出席。
〔垂穂寮〕9/20秋祭り、保護者多数参加。食事を催し物を楽しむ。9/29秋の健康診断。10/11島田市イナクルシニアスポーツパークへご利用者2名参加。10/24島田市歯科衛生会によるブラッシング指導。10/29中部衛生検査センター職員による感染症研修。
〔野ばら〕9/10ご利用者健康診断。10/11秋まつり。島田市イナクルシニアスポーツパークへ全員で参加。午後は音楽を楽しむ。
〔みぎやま〕9/6花火鑑賞会。打上花火等楽しむ。10/11島田市イナクルスポーツ・ポチャなどを楽しむ。
〔やまばと希望寮〕9/5台風15号明会。前期個別面談。参加者は19家族27名。終了後はご利用者と一緒に昼食会。9/26秋の健

康診断 9 / 26 清水港クルーズ。ご利用者 4 名。ご家族 1 名参加。
 18 秋祭り。ご家族、地域の皆様等、総勢 164 名の来場。民生委員や静岡福祉大学生生等 25 名のご協力
 模擬店やよさこい音頭を楽しむ。
 10 22 第三者評価利用者調査。静岡県社会福祉士会の実施。
 「生活支援センター」9 / 5 台風 15 号。地域の被災されたご利用者のために行政と連携して対応。
 「わかば」10 18 希望秋祭りに招待され、賑やかな祭りの雰囲気を楽しみ、
 もぐれや 9 20 お好み焼きづくり。
 10 18 希望秋祭り。
 「花もも」9 12 職員研修。救命救急の学び。10 31 ロウリン 真菜、マリー、聖ルカと交流。
 「かたくりの花」9 19 かたくりピクニック。食、競争に玉を入れ張り切る。
 10 10 フードバンクを届けに行く。
 10 2 3 オリーブの実の収穫。
 10 31 仮装ランウェイを楽しむ。
 「マリータ」9 5 台風 15 号接近により休業。9 15 ドーナツ作り。
 トッピングを楽しむ。10 2 3 ご利用者健康診断。10 3 さまみず収穫。10 17 収穫祭で大学芋を作る。
 10 31 感染症 BCC 研修。
 「カサランカ」9 5 障害者就職面接へ 3 名参加したが、台風の影響で途中中止。第二回新入職員オリエンテーションへ 3 名参加。
 「コスモ」9 24 ご利用者健康診断。10 17 火災避難訓練。水消火器訓練と非常食の試食。10 28 ロウリン。ご利用者職員が仮装。キッチンカーのチョコスを頂く。
 「なのはな」8 鳥居食品棟と就労継続 B 型ラフォーテを見学。7 名。9 23 保護者連絡。9 24 ご利用者健康診断。9 25 大塚製薬工場見学。14 名。10 15 ハウス食品工場見学。14 名。
 「希望の家」9 19 モルック大会。チームメイトと協力して点数を競い合う姿が嬉しい成果。9 27 料理体験。10 31 ハザード参加。10 16 地震車体験。10 31 ロウリン昼食会。
 「ふれあい」18 園磨き指導。10 16 地震車体験。震度 7 の経験。今後への防災に活かす。10 30 ハウスモルック大会開催。

『あさがお』9/9・体操教室9/22
22日かがりや、ホトケキッキング
スで非常食・防災食を作り・試食
9/24ご利用者健康診断10/14
笑いヨガ10/17ロウイン。仮面
マスク・カップケーキ・装飾とミイラ
巻きゲーム。

『WoCやまばと』自主製食品販売9/17
相良庁舎で。9/23泰善寺で。10/8
ハイルシ・エ棟原店・出品。10/18
職員2名・牧之原市災害ボランティア
参加。

『さくら』9/5台風15号接近に
より休業。9/29余暇を有意義に過
ごす練習。10/2ご利用者健康
診断10/31感染症BCP研修。
『レタスクラブ』9/5台風15号接
近により休業。9/10ランチくり
(チンジャオロース)。

『染症BCP研修』

『聖ルカホーム』9/12ご利用者100
歳の祝いで市職員が来訪。9/56
台風の影響で停電。復電後、エ
アコンが故障し修理。10/30
シートステイご利用者コロナ陽性。10月に職員2名・利用者2名。

『グレイズ』9/5白布の困窮で風船
バレー。9/5・6、台風15号の影響
で停電、断水有。9/19芸能祭。盆
踊り、花火を楽しむ。水羊羹を食す。
9/25白寿のお祝い。お寿司、プリン
アラモード。10/10手打ちそばの
実演。打立て新そばを食す。10/17
防災訓練。停電断水想定の初動確認
会。10/27ボリリング大会。その後焼き
芋を食す。10/31ハロウィンの仮装
とお菓子の手渡し。

『相寿園』9/9、10/14大場さんレク
ク。10/10輪投げ大会。10/15、24
笑いガ。10/21運動会。玉入れ。バ
食い競争など。10/24習字クラブ。
『真菜』9/18混ぜご飯と竹輪のかば
焼き作り。9/12・15敬老会。最
高年齢は百歳。あさみ会の舞踊
職員出し物。笑いヨガ、紅白ゼリ
を手作り。9/22、24おはき作り
ご利用者が手際よく手作り。10/2
オリブ摘み。10/6・11真菜
リンピック。輪投げ等3種目個人
戦団体戦を競う。10/17ヒラフ等
手作り。10/20、21卓球の煙のさつ

ま芋できんば作り。10/31花もこのバーに参加。
《すずらん》9/20敬老会。般の方も招待。日頃の感謝と健康を祈り感謝状を渡し、余興を楽しむ。9/25棟原中学生職業体験。ちらし寿司作り等で交流。10/9千し柿づくり、経験者のおかげで無事に吊るし。10日ほどで完成。10/10棟原蕎麦打ち愛好会様の手打ちそばを食へ、自作の天ぷらも合わせ大満足。
《さくらん》9/1体制を変更。
《シャロム》9/5台風15号。安否確認被害状況の把握サービス調整等実施。9/11、10/10主任ケアマネ連絡会地域課題検討。9/19グレイ秋祭りへの協力。10/17棟原地区民生委員との交流会、《オリフ》9/5台風15号の緊急対応。本文に報告。10/15棟原総合病院と「意思決定支援」の多職種情報交換会。居宅ケアマネ患者支援センター相談員、病棟看護師、訪問看護ステーション看護師等参加。
ボランティア活動
★活動者名(個人は姓名のみ)
個人 伊敷海芳則、池ヶ谷靖弘、池ヶ谷裕明、押本真央、小田知子、大塚はるみ、坪根恵子、小島美恵、落合和義、桑原崇子、小島茂美、佐藤藤栄、杉澤田只夫、澤山京果、杉山公彦、杉山由奈、杉山拓哉、鈴木千春、鈴木秋次、鈴木久美子、鈴木貴雄、高松早苗、高松千維、田中頼計、塚本英夫、手塚光希、殿村隆夫、内藤さき、中村日向、中村昶太郎、野平かな美、平井俊也、中井美保子、平井慶介、三浦孝、櫻井厚志、八木美恵子、柳本明日香、山西聖羅、横田喜久雄、古添美奈
団体 あさひ会、舞踊の披露)る姫(よさこい踊り、日赤奉仕団(草刈り等、棟原そは打ちの会)そは打ち実演、どんぐり(ウエス切り)さくら実演、どんぐり組(芸能会)
実習生受け入れ状況
(ケアセンターフコモス)
島田町立看護専門学校3名 2日間
清流館高校2名 2日間
清流館高校2名 2日間

寄付金状況報告

(単位：円)

	寄付金	指定寄付金	合 計
4月～ 9月	40,794,931	0	40,794,931
10月	1,149,727	0	1,149,727
計	41,944,658	0	41,944,658

*2025年5月大口寄附（個人）あり	18,555,081円
*2025年8月大口寄附（個人）あり	20,000,000円
	2025年10月31日現在

常葉大寮	2名	10日間
聖ルカ		
静岡福祉大学	1名	8/18
2名	8/18	9/9
榛原中学校職業体験	3名	9/24
《すずらん》		26
榛原中学校3名		
2日間		
榛原高校1名		
《喜来米》		
榛原高校1名		
2日間		
《やまほど希望寮》		
聖徳大学2名		
清流館高等学校4名		
2日間		
あとがき		
☆表紙の写真はケアセンターマーガレットのご利用者初のプランターでのイモ作り。初めてイモを掘り当てました。		
☆竹下知行先生は、坂部小学校の校長先生です。坂部小学校は、140年もの歴史をもつ地元の小学校で、早くから仲良し学級もあります。		
修学旅行・仲良し学級の生徒も参加で、大阪万博行くと聞ききまわし執筆を依頼したところ、翌日には原稿が届き、その仕事の早さに驚かされました。		
☆気持待ちの11月秋は短く、あつという間に冬を迎えました。寒暖差も著しい昨今です。くれぐれも自愛ください。		